

岡山大学附属図書館鹿田分館
(通称医学図書館)

岡山大学医学部の起源は明治三年(一八七〇)創設された岡山藩医学館にさかのぼることができる。鹿田分館所蔵の古医書及び自然科学古書は次の六種に大別される。

(一) 美濃国恵那郡付知村医家田口家旧蔵書 (二) 岡山藩医学館、岡山県公立病院、岡山県病院、岡山県医学校旧蔵書 (三) 医学部眼科学教室旧蔵書 (四) 適塾門人妹尾遊玄(倉敷住) 旧蔵書 (五) 新宮涼庭門山田成器旧蔵書 (六) 赤沢乾一(第三高等学校医学部明治二八年卒) 旧蔵書。

(一) 田口本の写本には田口玄遷、玄仙、養圭(之信)、鳳介などの名が散見する。田口鳳介(改め養圭重明)は伊藤圭介に学んだのち、大垣藩の蘭方医江馬活堂(四代目春齡)の格物堂に一八五五年に入門。写本から、養圭之信は尾張藩医浅井貞庵の静観堂および同藩医河田華山に漢方を学んだことがわかった。

(二) 岡山大学医学部の前身である岡山藩医学館から、明治一三年に設立された岡山県医学校に至るまでに購入された和医書、蘭英米医書の翻訳などがある。そのほか、岡山医学館が長崎で購入したオランダの医・薬・化学書など三十種百冊がある。

(三) これは近年眼科学教室から鹿田分館に移管。その筆写本の多くは江戸の眼科医土生玄碩の迎翠堂塾で写本されたものである。この中の宇田川玄真の「遠西医範眼目篇」、緒方洪庵訳「視力乏弱病論」があり、そのほか安田玉海著「眼科一家言」(刊本) などがある。

(四) 妹尾遊玄の旧蔵書は倉敷の木山殿太郎から一九一九年岡山医学専門学校に寄贈されたものである。古医書は刊本七三種五一一冊、写本五種一七冊である。この中に、嘉永六年に写本の緒方洪庵訳「人身究理小解」があり、訳解不能の箇所はオランダ語でしるしてある。この訳本の原本の日本(長崎か)での復刻版(和紙に印刷)もある。

(五) 山田成器(現、総社市久米出身)の旧蔵書とともに種痘メスや幕末、明治初期の種々の医療器具が子孫から寄贈された。ほとんど写本で、この中に坪井信道訳の「蒲爾花歌(ブルハーベ) 万病治準」二十冊がある。

(六) 赤沢乾一の没後、遺族から数十冊寄贈。

以上の古医書類の目録は、「岡山大学所蔵大原農書文庫・古医書集成目録」(二九八七年刊)におさめられている。

岡山市鹿田町二丁目 岡山大学医学部内

電話 〇六六―三三三―七五三、ファックス 〇六六―三三三―七四三

(中山 沃)